

2021年度夏期研修会 講演概要

第1講座

「ハンセン病問題学習教材『心の架け橋』」 長島愛生園入所者自治会 会長 中尾伸治さん

2019年10月、奈良県教育委員会よりハンセン病問題学習教材『心の架け橋』が発刊されました。教材は、ハンセン病を発症し14歳で一人長島愛生園（岡山県）へ行くことになった奈良県出身の中尾伸治さんのことが書かれています。県内の小学校5・6年生がこの教材を使って学習する際に、授業者自身が中尾さんの話を聴いているということは大切で、貴重な機会であると考えます。当日は教材文にあることを中心に語っていただきます。

第2講座

「部落問題の今とこれからの人権教育」 Demo 武田 緑さん

ほんとに今も部落差別なんてあるの？人権教育ってそんなに必要なもの？そんな素朴な疑問を感じる先生方もいらっしゃるのではないのでしょうか。この講座では、部落出身の当事者であり広く人権教育を専門にする講師の話と、講義スタイルのままでできる簡単な参加型ワークを通して、イマドキの部落問題の現状を押さえるとともに、より普遍的に、教職員が人権を学ぶことの意味を皆さんと一緒に考えていきたいと思えます。

第3講座

「ともに学びともに育つということ ～インクルーシブ教育の実現をめざして～」

NHK Eテレ「バリバラ」コメンテーター 玉木 幸則さん

近年、「共生社会」をスローガンに、様々な取り組みが進められている。一方、少子化が進んでいるにもかかわらず、一部、特別支援学校の新設が増えている。なぜなんだろう。「多様性がある」ということは、大人になってからなかなか気づくことはできないと考える。子どもの頃から、ともに学びともに育っていくからこそ、お互いを大切にしていけることができるはずなのだ。あらためて、真のインクルーシブ教育について、考えていくきっかけとなるお話をしていきたい。

第4講座

「遠いあなたとわたしのつながり ～SDGsと人権教育～」 立命館大学 河原 和之さん

「フィレオフィッシュを食べて海の豊かさが守れるの？」こんな“切り口”から2030年のあるべき姿を考えます。「私たちが新鮮で安いレタスを食べられるワケ」「障がい者と健常者の間」など日常的な社会事象を紐解き、私たちの“ちょっと”した行動の変化で“地球の未来”を変えることができます。17の目標が描く未来像、その解決方法を子どもたちとともに考えていくのがSDGs授業です。